＜様式１＞

令和３年度　さいたま市立　宮前小学校　自己評価書

校長　　髙田　信太郎　　印

１　学校で設定した「令和３年度の目標」及び関係する「評価項目」について

学校教育目標「本気で勉強しよう（知育）」「心をみがき、体をきたえよう（徳育・体育）」「人のためになろう（コニュニケーション）」を柱に教育活動を推進している。また、目指す学校像『笑顔あふれる宮前小』の具現化のため、保護者や地域と連携を積極的に図るとともに、教職員一人ひとりの「学校づくりの担い手」としての意識と、豊かな人間性、社会性、実践的指導力を高めるべく、今年度は以下の項目を重点とした。

（１）全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びの推進（研究指定）
（２）基礎的・基本的な学力の定着を図るための、国語科を中心とした学習指導の工夫改善
（３）児童一人ひとりを大切にした指導、学年・学級経営の充実
（４）いじめ・問題行動・不登校に迅速かつ適切に対処する生徒指導の充実
（５）教育相談・特別支援教育の充実
（６）保護者・地域・関係機関と連携した安心・安全な教育活動の推進及び教育環境の整備
（７）コミュニティ・スクール導入に向けて家庭・地域との絆を深める学校づくりの推進
（８）教職員一人ひとりの業務改善・働き方改革への意識の高揚とチーム力（組織力）を高める取組の充実

２　評価結果について

（１）達成することができた項目

児童・保護者・教職員ともに肯定的評価が９割を超えた項目は、「基礎・基本を大切にした、分かりやすい授業を行っている」「元気に登校している」であった。今年度は特に、ICT を活用した個別最適な学びの推進に重点を置き、学校全体で取り組んできた成果と考えられる。

（２）達成することができなかった項目

保護者の肯定的評価が８割未満の項目は「あいさつができる教育がなされている」「場や相手に応じた言葉遣いが身に付いている」である。特にあいさつは、児童・保護者・教職員ともに昨年度より数値が低下しており、本校の重点課題の一つと重く受け止めている。

３　次年度に向けた具体的な改善策について

・今年度、「あいさつができる教育がなされている」の肯定的評価が低下したことに伴い、次年度はあいさつの励行を重点項目に掲げ、学校全体で積極的に推進していく。
・次年度も引き続き、学校の教育方針や行事、子どもたちの様子などについて、学校だよりや学年だより、ホームページ等で保護者や地域の方々に積極的に発信し、理解を深めていただく。
・今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を十分に講じ、保護者・地域の方々の協力を得ながら、少しずつ校外学習や運動会をはじめとする行事等を実施することができた。次年度も状況を見極めながら、学校公開や授業参観なども分散で行うなど、可能な限り要望に応えていきたい。
・昨年度からの要望を受け、今年度はインターネットでの回答としたが、昨年度より回答数が減少してしまった。回答方法を選択できるようにするなど、柔軟に対応したい。
・今年度から学校全体で「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」の研究に着手した。ICT 活用の研修や授業公開、研究発表等を通して、教員一人ひとりの研究意欲が高まっている。２年目となる次年度も引き続き、学校全体で授業の質を高められるよう研究に取り組んでいく。
・生徒指導等様々な課題に迅速に対応するため、教育委員会や警察・児童相談所など外部との連携や、スクールロイヤーの活用も積極的に進めていく。
・老朽化による施設・設備の改修、改善は本校の大きな課題である。児童・保護者・教職員の安全を第一に考え、安全点検の確実な実施と、管理職が覚知した日に素早く対応できる体制の構築に努めていく。

※　Ａ４判１枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。